


令和4年度 基本評価調書①		所管部局	環境生活部	所管課	自然環境課、野生動物対策課		
施策名	野生動物等の適正な管理			施策コード	0302		
政策体系(中項目)	豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承			政策体系コード	1(3)B		
関連重点戦略計画等	知事公約 創生総合戦略 強靱化計画 Society5.0推進計画					事務事業数	18
SDGs				総合判定	やや遅れている		
予算額(千円)	R 4	421,561	R 3	315,374	R 2	319,281	

施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性保全の観点から、人と自然の共生を基本とした自然環境の保全と創造を進める。 ・エゾシカなど増えすぎた野生鳥獣やアライグマなどの外来種の適正管理を行い、被害防止対策に取り組む。 ・エゾシカ肉を道産ジビエとしてブランド化するなど地域資源としての有効活用に取り組む。 					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・急増したエゾシカの他、ヒグマやアザラシなどの野生鳥獣、人為的に持ち込まれた外来種の分布拡大は、農林水産業への被害や人身事故の発生だけでなく、本道の生物多様性の保全にも悪影響を与えるなど、大きな脅威となっている。 ・本道固有の希少な動植物の保護とその生育環境を保全するとともに、野生鳥獣の適正な個体数管理や外来種の防除などの取組を推進する必要がある。 ・都道府県で唯一、北海道のみ動物愛護センター未設置となっており早期設置が必要である。 					
前年度二次評価意見	人と自然の共生を基本とした自然環境の保全を図るため、増えすぎたエゾシカの適正な管理は重要であり、取組の一層の推進を検討すること。	対応状況(R4.3時点)	エゾシカの適正な個体数管理のため、市町村等による捕獲を推進し、市町村等による捕獲が困難な地域については、道においても捕獲を実施する。			

	今年度の取組	実績と成果
主な取組	<p>【生物多様性の保全】ヒグマ等の人里への出没の抑制及び農業被害の軽減を図りながら地域個体群の存続を図る。</p> <p>【ヒグマ対策】人身被害防止に向けた普及啓発、出没個体への対応</p> <p>【アザラシ対策】生息数等モニタリング、有効な捕獲手法の検討、アザラシ管理検討会を実施。</p> <p>【エゾシカ対策】管理計画等に基づく捕獲の推進、捕獲手法の普及促進やエゾシカ肉処理施設の認証。</p> <p>【動物愛護】引取られた犬、猫の返還・譲渡の推進、動物愛護の普及啓発、動物の適正飼養の推進、高病原性鳥インフルエンザウイルス対策（渡り鳥の飛来状況巡視、死亡野鳥の回収・検査）、動物愛護管理センター運用開始に向けたセンター機能の実証</p>	<p>【ヒグマ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北海道ヒグマ注意報等発出実施要領」を策定し、運用を開始（R4.7月時点 注意報4件発出） ・「北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業実施要領」を策定し、緊急性や解決困難性の観点から専門家を現地に派遣。 <p>【アザラシ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息数等モニタリングのR3年は夏期確認個体数717、基準年であるH27年の夏期確認個体数1,413の概ね2分の1となった。有効な捕獲調査手法の検討については、R3年度は悪天候のため調査中止。アザラシ管理検討会のR3年度実績は2回（R1:2回、R2:2回） ・銃による捕獲や追い払い効果を検証したところ、H27年度以降、個体数の減少傾向が一定程度見られた。（夏期確認個体数 R3:717、R2:609、R1:1,010） <p>【高病原性鳥インフルエンザウイルス対策】</p> <p>随時、対応レベルに応じた監視等を行うとともに、死亡野鳥等検査を実施。（死亡野鳥等検査数：R3:120、R2:54、R1:25）</p> <p>【動物愛護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬猫の返還・譲渡の推進、動物愛護の普及啓発等についてはホームページを活用するとともに関係団体と連携。動物愛護管理センター運用開始に向けたセンター機能の実証事業を道央と道東で実施中。 <p>【エゾシカ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理計画等に基づく捕獲の推進、捕獲手法の普及促進やエゾシカ肉処理施設の認証。

連携状況	農林業被害状況の確認、鳥獣被害防止交付金での各種対策や道有林内の林道除雪など、農政部、水産林務部と連携し対策を推進。保健福祉部と連携し、食肉処理施設での現地審査及び定期的現地確認を行い、食品衛生に関する技術的助言を受けている。
緊急性優先性	エゾシカ捕獲推進プランにより、増えすぎたエゾシカの適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、有識者会議、生息状況評価部会において専門家や業界の意見を把握。国の事業においても、道の個体数削減の取組と、より一層一体的に実施するよう要望している。エゾシカ肉の有効活用の推進については、各地方期成会より要望がある。

令和4年度 基本評価調書②	施策名	野生動物等の適正な管理	施策コード	0302
---------------	-----	-------------	-------	------

<成果指標の達成状況> ⇒ 3つ以外の指標は、補助指標調書に記載

指標名①	減少	%	H29年度	H30年度	R1年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（東部地域～オホ、十勝、釧路、根室）	目標値		65	58	52	56	64.2%	D
	実績値		84	82	81	-		
設定理由	総合計画の政策の方向性「人と自然・生き物が共生する社会づくり」の観点から、エゾシカの適正な管理に係る取組の成果を測る指標として設定。（R4.3月、エゾシカ管理計画（第6期）の策定に伴い、基準年度と目標値を変更。R1以前の指数は第6期計画基準年に換算した数値を使用。）							
分析（主な取組と成果）								
捕獲推進プランにより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が捕獲を実施。平成30年の狩猟事故を受けた安全対策としての国有林・道有林における銃猟制限や令和元年度の少雪、新型コロナウイルスの影響などで、道内の捕獲数は一旦減少したが、令和2年度には増加。								

指標名②	増加	施設	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
エゾシカ肉処理の認証施設数	目標値		-	18	20	22	80.0%	C
	実績値		14	15	16	-		
設定理由	総合計画の政策の方向性「人と自然・生き物が共生する社会づくり」の観点から、エゾシカの適正な管理に係る取組の成果を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
認証施設の優位性が十分働いていないことや、認証基準が求める要件に対応できないことなどが要因で認証施設数が伸び悩んでいる。認証施設数の増加に向けて、認証施設に優勢を図る取組が必要。								

指標名③	増加	頭数	H30年度	R元年度	R2年度	最終目標(R4)	達成率	指標判定
認証施設の食肉処理頭数	目標値		-	15,000	15,000	20,000	82.1%	C
	実績値		11,502	12,560	12,318	-		
設定理由	総合計画の政策の方向性「人と自然・生き物が共生する社会づくり」の観点から、エゾシカ肉の有効活用に係る取組の成果を測る指標として設定。							
分析（主な取組と成果）								
コロナ禍による影響から未だ抜け出せていないことなどから処理頭数は減少傾向。認証施設の処理頭数の増加を図る上で、販路拡大や消費拡大に向けた取組が必要。								

【総合判定】

連携状況	○	緊急性優先性	○	指標判定	C	総合判定	やや遅れている
------	---	--------	---	------	---	------	---------

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	エゾシカ捕獲推進プランと市町村の被害防止計画との整合を図り、引き続き指標の達成に向けた取組を推進。北海道エゾシカ管理計画期間中(第6期)において必要な捕獲数を明示し、令和5年度以降の目標を積み増し捕獲推進を図ることとしている。
	②	安全・安心なエゾシカ肉の流通拡大を図るため、「エゾシカウィーク」などのイベントの他、SNSを活用した情報発信等により、認知度向上や消費拡大に取り組むとともに、引き続き認証施設数の増加を推進する。
	③	動物愛護に関しては、獣医師会や獣医系大学、愛護団体などで構成される検討会議・ワーキンググループにおける議論や実証事業の結果を踏まえ、道央、道東地区においては、令和5年度からの動物愛護管理センターの運用開始を目指す。

令和4年度 基本評価調書③	施策名	野生動物等の適正な管理	施策コード	0302
---------------	-----	-------------	-------	------

<二次政策評価>

R4年度 二次政策 評価	<p>【施策目標の達成状況】 総合計画に掲げる、人と自然・生き物が共生する社会づくりの推進のため、野生鳥獣の適正な個体数管理や外来種の防除などが重要であり、総合計画の政策目標の実現に向け、取組の一層の推進を検討すること。</p> <p>【施策の緊急性・優先性】 ヒグマ対策について、室設置による効果的・効率的な執行体制の構築を進めること。</p>
--------------------	---

令和4年度 補助指標調書①	施策名	野生動物等の適正な管理	施策コード	0302
---------------	-----	-------------	-------	------

【成果指標の達成状況】

補助指標名①	減少	相対値	H29年度	H30年度	R1年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（北部地域～空知、上川、留萌、宗谷）		目標値	73	69	64	90	72.7%	D
		実績値	88	87	88	-		
設定理由	総合計画の政策の方向性「人と自然・生き物が共生する社会づくり」の観点から、エゾシカの適正な管理に係る取組の成果を測る指標として設定。（R4.3月、エゾシカ管理計画（第6期）の策定に伴い、基準年度と目標値を変更。R1以前の指数は第6期計画基準年に換算した数値を使用。）							
分析（主な取組と成果）								
捕獲推進プランにより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が捕獲を実施。平成30年の狩猟事故を受けた安全対策としての国有林・道有林における銃猟制限や令和元年度の少雪、新型コロナウイルスの影響などで、道内の捕獲数は一旦減少したが、令和2年度には増加。								

補助指標名②	減少	相対値	H29年度	H30年度	R1年度	最終目標 (R7)	達成率	指標判定
エゾシカ個体数指数（中部地域～石狩、胆振、日高）		目標値	73	69	64	90	72.7%	D
		実績値	88	87	88	-		
設定理由	総合計画の政策の方向性「人と自然・生き物が共生する社会づくり」の観点から、エゾシカの適正な管理に係る取組の成果を測る指標として設定。（R4.3月、エゾシカ管理計画（第6期）の策定に伴い、基準年度と目標値を変更。R1以前の指数は第6期計画基準年に換算した数値を使用。）							
分析（主な取組と成果）								
捕獲推進プランにより適正な個体数管理のための捕獲目標を定めるとともに、鳥獣保護区などでは、道が捕獲を実施。平成30年の狩猟事故を受けた安全対策としての国有林・道有林における銃猟制限や令和元年度の少雪、新型コロナウイルスの影響などで、道内の捕獲数は一旦減少したが、令和2年度には増加。								

補助指標名③			R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (0)	達成率	指標判定
		目標値					-	-
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

補助指標名④			R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (0)	達成率	指標判定
		目標値					-	-
		実績値						
設定理由								
分析（主な取組と成果）								

令和4年度 事務事業評価調査	施策名	野生動物等の適正な管理	施策コード	0302
-----------------------	-----	--------------------	-------	-------------

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	令和4年度						令和4年度			
						前年度からの繰越事業費(千円)	事業費(千円)	うち一般財源	執行体制			フルコスト(千円)	一次政策評価		二次政策評価意見
									本庁	出先機関	人工計		対応方針番号	方向性	
0534		一般	生物多様性保全推進事業費	北海道における生物多様性保全に係る取組を推進する業務 生物の多様性の保全等に関する条例に基づく絶滅のおそれのある野生動植物の保護対策のための業務 外来種による本道の生態系への悪影響を防止するために行う検討会等の業務	自然環境課	0	9,472	7,727	3.2	3.9	7.1	64,738			
0515		一般	動物愛護管理対策推進費	動物愛護法等に基づき、動物の適正な飼養及び取扱いの推進に関する業務	自然環境課	0	14,818	9,792	0.9	21.1	22.0	186,066			
0516		一般	鳥獣保護対策推進費【自然環境課から移管】	鳥獣保護法に基づき適正な野生鳥獣の保護管理のための業務	野生動物対策課	0	1,065	1,065	0.7	2.9	3.6	29,087			
0517		一般	鳥獣保護対策推進費(アザラシ分)【自然環境課から移管】	漁業被害の軽減とアザラシ類の共存のため、定着個体の削減、有効な捕獲手法の確立など、アザラシ類の適正な個体数管理を推進するための業務	野生動物対策課	0	5,245	0	0.9	0.0	0.9	12,251			
0518		一般	ヒグマ対策推進費【自然環境課から移管】	ヒグマによるあつれきの軽減及びヒグマ地域個体群の存続の両立を図るため、適正なヒグマ保護管理を推進するための業務	野生動物対策課	0	23,305	5,321	1.3	8.0	9.3	95,696			【施策の緊急性・優先性・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0520		一般	高病原性鳥インフルエンザ対策事業費【自然環境課から移管】	道内の野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルスの感染防止を図るため、関係機関と連携した渡り鳥の飛来状況監視、死亡野鳥の回収・検査を実施	野生動物対策課	0	1,362	1,362	0.3	0.9	1.2	10,703			
0521		一般	狩猟免許事務費【自然環境課から移管】	狩猟免許試験、狩猟免許更新講習及び狩猟者登録の係る業務 狩猟者による事故の未然防止のための指導・取締りに関する業務	野生動物対策課	0	18,492	18,492	0.6	9.8	10.4	99,446			
0523		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ対策推進費)【自然環境課から移管】	エゾシカの被害低減を図るため、エゾシカ管理計画(第6期)に基づき、エゾシカの個体数の適正管理を行う(有識者会議の開催、ライトセンサス調査等)	野生動物対策課	0	10,122	10,122	1.1	4.9	6.0	56,826	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0524		事務	狩猟及び有害駆除の促進に係る事務【自然環境課から移管】	鳥獣保護法に基づきエゾシカ個体数の適正管理のための業務 ・鳥獣法運用・エゾシカ規制・適正捕獲普及啓発・捕獲上積みのための市町村捕獲事業への助成・各振興局に配置した対策チームによる地域支援を行う事業	野生動物対策課	0	0	0	1.6	8.1	9.7	75,505	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0525		事務	エゾシカの有効活用に関する事務【自然環境課から移管】	エゾシカ肉の消費拡大を図る「シカの日」の定着促進や食肉以外の部位の利活用など、エゾシカ捕獲後の有効活用を推進	野生動物対策課	0	0	0	1.5	0.7	2.2	17,125	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0526		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業費)【自然環境課から移管】	北海道エゾシカ管理計画(第6期)目標達成のため、道指定鳥獣保護区等において関係機関と連携した捕獲事業等を実施する	野生動物対策課	0	75,607	24,365	0.9	2.3	3.2	100,516	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0528		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ有効活用推進事業費)【自然環境課から移管】	認証制度の運用や認証取得の推進、家庭、レストラン及び革製品等の様々な場面におけるエゾシカの利活用機会拡大	野生動物対策課	0	6,808	0	0.2	0.0	0.2	8,365	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0529		一般	「稼ぐジビエ」マーケティングモデル創出事業費(創生交付金)【自然環境課から移管】	安全・安心なエゾシカ肉の流通拡大を図るため、認証施設の強みを活かした事業展開及びブランディングに向けた取組を実施	野生動物対策課	0	10,085	5,043	0.8	0.0	0.8	16,312	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0530		一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカジビエ利用拡大推進等事業費)【自然環境課から移管】	エゾシカジビエの利用拡大を図るため、捕獲個体の食肉処理施設への搬入経費等の支援を実施	野生動物対策課	0	93,816	0	0.9	0.0	0.9	100,822	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0531		一般	アライグマ根絶モデル実証事業費【自然環境課から移管】	近年アライグマの生息地拡大に伴い農業被害等が増加しているため、モデル地域においてICT活用による捕獲を実施、効率的な捕獲プログラムを作成	野生動物対策課	0	12,356	9,356	0.5	0.0	0.5	16,248	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照

0532	一般	ICTを活用したヒグマに強い地域づくり実証モデル事業費	ヒグマによるあつれきに対処するため、ICTを活用した生息実態の把握、出没抑制対策に有効な手法・技術を総合的に検討検証するための業務	野生動物対策課	0	14,823	14,823	3.2	8.0	11.2	102,004	②	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0533	一般	エゾシカ対策推進事業費(エゾシカ捕獲困難地対策事業)	北海道エゾシカ管理計画(第6期)目標達成のため、市町村界や捕獲制限地等における捕獲事業等を実施する	野生動物対策課	0	108,122	0	2.5	0.0	2.5	127,582	①	改善(指標分析)	【施策目標の達成状況・事務事業の有効性】 ※基本評価調査③<二次政策評価>参照
0534	一般	動物愛護管理推進費(動物愛護管理センター運用実証事業)	動物愛護管理センター機能の強化・拡充に向け、関係団体との協議及び実証事業を実施する	自然環境課	0	16,063	16,063	0.7	0	1	21,530	③	改善(取組分析)	
計					0	421,561	123,531	21.8	70.6	92.4				